第１章

平成 24 年度　いんざい環境ニュース

平成 24 年度に印西市で開催された環境関連イベントや環境保全に関する新しい取組み、出来事などを紹介します。

本文中、※印の付いている用語の解説は、資料編 P.82 用語解説をご覧ください。

1　武西地区の里山を守ろう

平成 25 年 3 月 3 日、「武西地区の里山に不法投棄された廃棄物の撤去事業」を実施しました。同事業は、NPO※法人「谷田武西の原っぱと森の会」の企画提案により、市と協働で実施した事業です。平成 24 年度の年間を通し、周辺のパトロールや散乱ごみの清掃なども実施していただきました。

当日は市民活動団体など全 16 団体のほか、個人参加者を含めて約 130 人のみなさんとの協働により、80 トンもの不法投棄物を撤去することができました。

大規模な不法投棄現場は、長年をかけて被害が大きくなっていきます。不法投棄物を放置すると、そこに新たな不法投棄を呼び込む悪循環が生じ、状況によっては有害物質が漏出するなど、景観悪化にとどまらず、自然環境にも深刻な影響を及ぼします。

市では、監視カメラの増設や市職員及び不法投棄監視員、委託警備会社によるパトロールなどにより監視体制を強化していますが、市民のみなさんが「不法投棄は絶対にさせない、許さない」という強い気持ちで監視の目を光らせることが、何よりも効果的です。

市内の大規模な現場は撤去が終了しましたが、今後も市民のみなさんと連携し、不法投棄の撲滅を目指していきます。

廃棄物を撤去する前の里山

廃棄物を撤去した後の里山

清掃作業の様子

不法投棄物を撤去してきれいな里山風景を取り戻すため、約 130 人のボランティアが清掃作業を実施しました。

2　永治小学校に環境生活部長感謝状

平成 24 年 12 月 19 日に開催された「第 12 回千葉県廃棄物適正処理推進大会」で、永治小学校が「循環型社会形成推進功労者」として表彰を受けました。

「千葉県廃棄物適正処理推進大会」は、資源循環型社会の構築に向けて、廃棄物の減量化・再資源化をより一層推進し、県民から信頼される適正処理を確保するため、県民・事業者をはじめ関係者が一堂に会し、廃棄物に対する認識を一層深めることを目的として開催されているものです。

永治小学校では、児童と保護者や地域の皆さんとが連携し、廃品回収活動を 40 年以上継続して行っています。登校時には通学路のごみ拾い活動、各学級で出る紙やビニールごみは教室内に設置したリサイクルボックスで所定の場所に収集し資源として回収するなど、日常的で地道なリサイクル活動を行ってきました。

これらの活動が評価され、廃棄物の発生抑制・再利用・再生利用の推進に向けた活動を継続的に取り組み、循環型社会の形成に向けて大きな功績があった個人・団体・事業者に送られる「循環型社会形成推進功労者」として、環境生活部長感謝状の表彰を受けました。

永治小学校では今後も児童のクリーン印西への参加や保護者・地域の協力による廃品回収などの活動を継続し、地域と共に環境教育に取り組んでいきます。

リサイクル活動の様子

ごみ袋を手に、
ごみ拾いをしながら
登校します。

学校に到着！
拾ったごみを職員と
分別します。

3　新たな環境基本計画の策定

印西市では、平成 15 年３月に「印西市環境基本計画」を策定し、環境施策を推進してきました。平成 24 年度までを計画期間とし、毎年の取組みの状況はこの環境白書の作成を通じて、広く市民・事業者のみなさまへ公表することで進捗状況の点検・評価を行ってきました。

そして、平成 22 年３月 23 日には、印西市・印旛村・本埜村が合併し、新印西市となったことで、市域の環境はより多様なものとなりました。

これらの背景をふまえ、新市として歩み始めた印西市の将来のより良い環境づくりを目指すために、新たな「印西市環境基本計画」を平成 25 年３月に策定しました。

新たな計画では、『「ひと　まち　自然」が調和し、豊かで安心できる環境で暮らせるまち　いんざい』を将来環境像として、５ つの基本目標、10 の取組み方針に沿って施策を進めていきます。重点プロジェクトは、「地域で里山を守り・育むしくみづくり」、「地域ぐるみによるごみ減量・リサイクル活動の展開」、「再生可能エネルギー※・省エネルギー化への推進」の３つを設定し、一層取組みを推進していきます。

《 新しい環境基本計画の体系 》